

ミカワコケシノブ *Hymenophyllum mikawanum* (Seriz.) Seriz.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 13。東海地方西部の固有種で、自然度の高い森林に依存する植物である。

【形態】

小型の常緑性多年生草本。根茎は細い針金状で長くはう。葉柄は長さ 1.2~3cm、翼はほとんど発達せず、ある場合でも上端部にわずかにつく程度である。葉身は 2 回羽状に切れ込み、長さ 3~5.5cm、幅 1.3~3cm、裂片は比較的狭い角度で開出する。胞子のう群は葉の先端に集まってつき、包膜は三角状卵形~広披針形、長さ 1.3~2mm で、辺縁に欠刻状の著しい歯牙がある。包膜のへりに欠刻があることで、日本産の近似種から容易に区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（芹沢 46815, 1987-8-30）、2 豊根（芹沢 77979, 2002-8-24）、3 東栄（村松正雄 21408, 2002-8-24）、4 津具（芹沢 86182, 2010-9-18、6 設楽西部（芹沢 86743, 2011-4-24）。西：5 稲武（芹沢 92673, 2017-7-25）、19 旭（芹沢 30765, 1979-10-28, 正基準標本）。

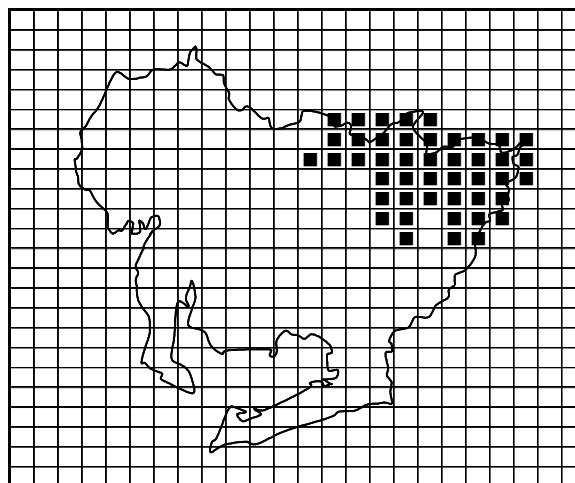
【国内の分布】

本州中部。胞子体の既知の分布域は静岡県西部、長野県南部、愛知県および岐阜県美濃地方に限られるが、東京都奥多摩地区に前葉体が生育しているという。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

深山の林内。沢沿いの湿った岩上に生育し、しばしばマット状の群落を作る。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河北部には点在するが、多いものではない。基準標本が採集された場所では大きな群落があったが、森林の伐採のため空中湿度が低下し、絶滅状態である。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林を保全し、空中湿度の高い状態を維持する必要がある。

【特記事項】

旧旭町産の標本に基づき、1983年に記載された種類である（芹沢 1983）。線画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 9 に掲載されている。

【引用文献】

芹沢俊介. 1983. 本州産ホソバコケシノブ属の 1 新種. 植物研究雑誌 58: 62-64.

【関連文献】

学シダ I p.310, SOS 旧版 p.37, SOS 新版 p.22,24.